

特別支援学級通学区域 変更案 1

概要1 通学区域案の概要について

【変更後の通学区域案について】

中学校	変更後の通学区域案
田無第一中学校	芝久保町全域、新町全域、田無町2～7丁目、南町全域、向台町全域
保谷中学校	泉町1丁目1～4・15・16番、2丁目1～5・13～15・17～20番、3～6丁目、田無町1丁目、中町全域、東伏見全域、富士町全域、保谷町全域、柳沢全域
青嵐中学校	北町全域、栄町全域、下保谷全域、住吉町1丁目1～3・21番、2～6丁目、東町全域、ひばりが丘北全域
ひばりが丘中学校	泉町1丁目5～14・17番、2丁目6～12・16番、北原町全域、住吉町1丁目4～20番、西原町全域、ひばりが丘全域、緑町全域、谷戸町全域

【変更箇所について】

変更前	変更後	変更箇所
田無第一中学校	ひばりが丘中学校	西原町全域、緑町全域
保谷中学校	ひばりが丘中学校	泉町1丁目5～14・17番、2丁目6～12・16番、北原町全域
青嵐中学校	ひばりが丘中学校	住吉町1丁目4～20番、ひばりが丘全域、谷戸町全域

概要2 通学区域案の特徴について

- 【ポイント】
ひばりが丘中学校周辺地域のみ通学区域の変更を行い、既存の通学区域から大幅な変更はしていません。
- 【想定される課題】
田無第一中学校の学級数が増加するため、田無第一中学校の**教室数の確保が課題**として挙げられます。
青嵐中学校の**学級数が大幅に減少**するため、特別支援学級の運営に支障をきたす恐れがあります。

視点1 今後の生徒数及び学級数の推計と学校施設の状況について (表1参照)

- 【教室数の不足が見込まれる学校】
田無第一中学校：令和5年度以降に6学級以上となり**教室数の不足**が見込まれます。
- 【学級数の極端な減少が見込まれる学校】
青嵐中学校：5学級（R2年度）から2学級（R7年度）まで減少が見込まれています。学級数の大幅な減少による、**教員数の減少や学校行事・集団教育活動に制約が生じやすいなどの課題**が挙げられます。
- 【学校施設に対し、適正な学級数の推移が見込まれる学校】
保谷中学校：7学級以下で推移するため、**施設状況に対して適正な規模が見込まれます**。
ひばりが丘中学校：令和7年度に見込まれている学級数は、6学級であり**施設状況に対して適正な規模が見込まれます**。

		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度		
		知的	情緒	計	知的	情緒	計	知的	情緒	計	知的	情緒	計	知的	情緒	計	知的	情緒	計
田無第一中学校	人数	29人	5人	34人	31人	6人	37人	30人	7人	37人	30人	9人	39人	33人	9人	42人	35人	7人	42人
	学級数	4学級	1学級	5学級	4学級	1学級	5学級	4学級	1学級	5学級	4学級	2学級	6学級	5学級	2学級	7学級	5学級	1学級	6学級
保谷中学校	人数	35人	15人	50人	36人	16人	52人	33人	16人	49人	31人	11人	42人	37人	7人	44人	38人	10人	48人
	学級数	5学級	2学級	7学級	5学級	2学級	7学級	5学級	2学級	7学級	4学級	2学級	6学級	5学級	1学級	6学級	5学級	2学級	7学級
青嵐中学校	人数	26人	8人	34人	28人	8人	36人	27人	6人	33人	22人	6人	28人	10人	6人	16人	6人	3人	9人
	学級数	4学級	1学級	5学級	4学級	1学級	5学級	4学級	1学級	5学級	3学級	1学級	4学級	2学級	1学級	3学級	1学級	1学級	2学級
ひばりが丘中学校	人数	-	-	-	-	-	-	10人	2人	12人	20人	6人	26人	27人	10人	37人	31人	13人	44人
	学級数	-	-	-	-	-	-	2学級	1学級	3学級	3学級	1学級	4学級	4学級	2学級	6学級	4学級	2学級	6学級
合計	人数	90人	28人	118人	95人	30人	125人	100人	31人	131人	103人	32人	135人	107人	32人	139人	110人	33人	143人
	学級数	13学級	4学級	17学級	13学級	4学級	17学級	15学級	5学級	20学級	14学級	6学級	20学級	16学級	6学級	22学級	15学級	6学級	21学級

視点2 通学路の安全性及び通学距離・時間について

- 【通学距離・時間の短縮が見込まれる地域】
西原町全域、緑町全域、谷戸町全域、ひばりが丘2～4丁目、北原町3丁目の地域において、従来の指定校よりも**通学距離・時間が短縮される**ことが見込まれます。
- 【通学の安全性の向上が見込まれる地域】
西原町及び緑町地域では、従来の登下校から、西武新宿線の踏切を横断せずに通学することができ、生徒の**通学に係る安全性の向上**が見込まれます。

視点3 小学校から中学校への進学先について (表2参照)

- 【進学先中学校が減少する小学校】
・ 中原小学校 (3校→2校)
- 【進学先中学校が増加する小学校】
・ 田無小学校 (2校→3校)

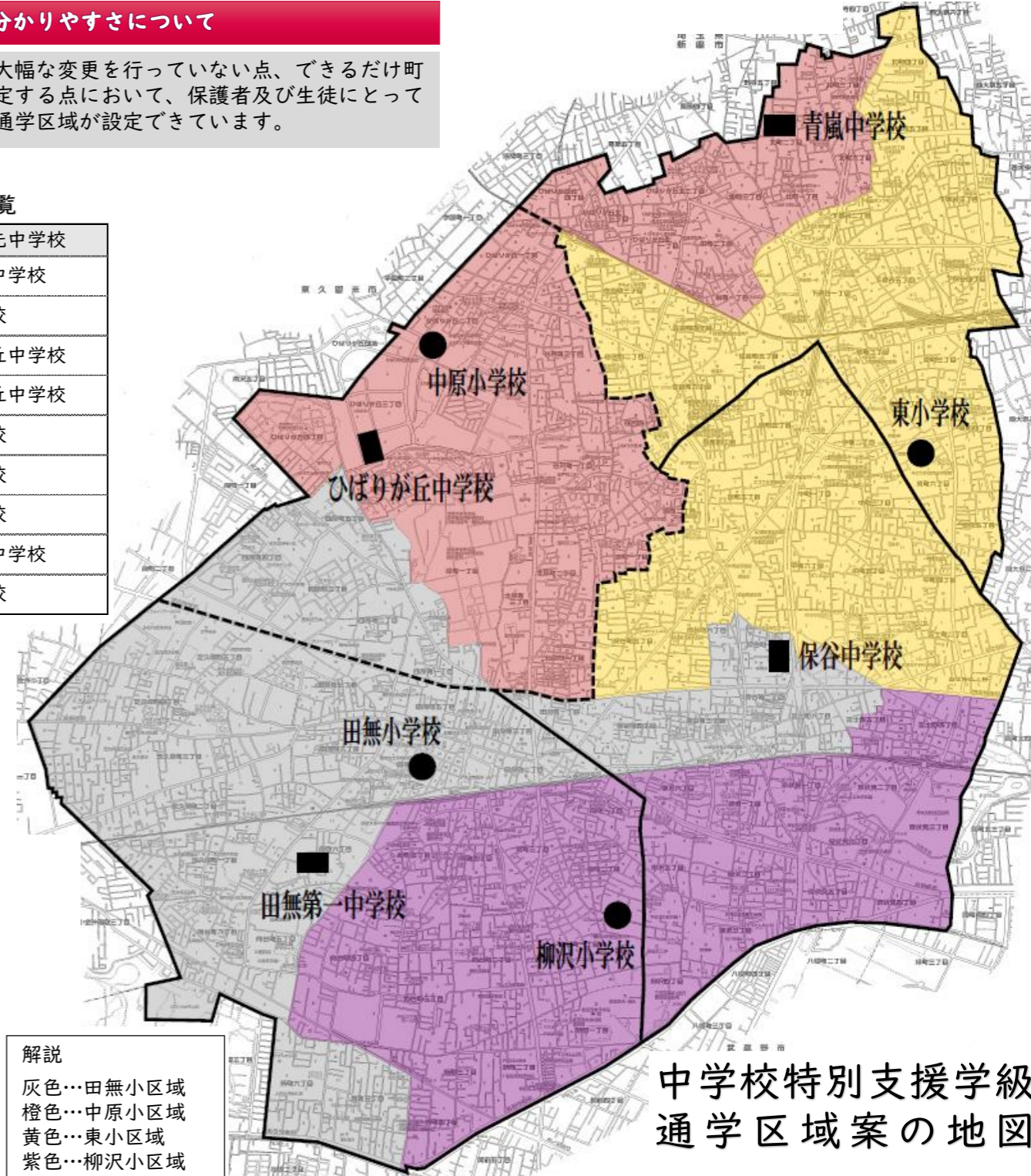
※第1回検討懇談会や、保護者アンケートでの意見を踏まえ、友人関係等の分断を極力、回避する観点から、小学校からの進学先中学校ができるだけ分散化しないように通学区域を設定しています。

視点4 通学区域の分かりやすさについて

従来の通学区域から大幅な変更を行っていない点、できるだけ町丁ごとに通学区域を設定する点において、保護者及び生徒にとって分かりやすい視点から通学区域が設定できています。

表2 進学先中学校一覧

在籍小学校	進学先中学校
田無小学校	田無第一中学校
	保谷中学校
中原小学校	ひばりが丘中学校
	青嵐中学校
東小学校	保谷中学校
	青嵐中学校
柳沢小学校	田無第一中学校
	保谷中学校



解説
灰色…田無小区域
オレンジ…中原小区域
黄色…東小区域
紫色…柳沢小区域

中学校特別支援学級通学区域案の地図